

ID <sup>注1)</sup>	091201	公開レベル <sup>注1)</sup>	B	保管形式 <sup>注1)</sup>	電子	保管場所 <sup>注1)</sup>		前回ID	011201
報告書名称 /調査名称	平成21 年度白神山地世界遺産地域実態把握調査報告書						発行年月/報告年月		
							2010年	2月	
調査機関	東北森林管理局			委託機関	社団法人 日本森林技術協会				
	調査開始年	2009年	調査期間	2009年	7月	~	2010年	2月	
調査頻度 <sup>注2)</sup>	一	調査時期 <sup>注2)</sup>	夏	一	一				
モニタリング 計画	2012年3月 策定	区分 <sup>注2)</sup>	III	大区分 <sup>注2)</sup>	1	小区分 <sup>注2)</sup>	(2)	(3)	
調査箇所・範囲 <sup>注3)</sup>					目的・調査手法				
<input checked="" type="checkbox"/> 核心地域 <input checked="" type="checkbox"/> 緩衝地域 <input type="checkbox"/> 周辺地域 <input type="checkbox"/> GPS等の位置データあり					<b>■調査目的</b> 平成13 年度に「指定ルート」の実態把握調査を実施した結果、入山過多等による大きな問題は認められなかったが、前回調査から8年が経過し、禁漁区域内での釣りやたき火等の違法行為の情報が寄せられ、入山者による植生への影響等が懸念されること。また、今回、秋田側の二ツ森歩道、小岳歩道についても、登山道からの踏み出し等により、登山道周囲の裸地化や植生破壊の進行が見受けられること。さらに2012 年に予定されている世界遺産委員会への定期報告を見据え、入山による遺産地域への影響について、科学的な知見をとりまとめることも白神山地世界遺産地域の保全管理を適正に行う上で極めて重要である。このため「指定27 ルート」等の実態を把握し、今後の白神山地世界遺産地域の適正な保全管理に資するため調査を実施する。				
<p>備考欄参照</p> <p>※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。</p>					<b>■調査項目及び調査手法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>核心地域内の指定ルート、既存歩道等の状況 横断形状測定、歩道の荒廃状況の概要、荒廃による周辺植生の変化、里山植生の進入状況、キャンプ、たき火、魚釣りの状況等の把握</li> <li>標識類 標識類の種類、設置位置、現況</li> <li>鳥獣類の生息状況 各ルート上の野生生物のフィールドサインを探索</li> </ul>				
結果概要（スペースに収まるように入力してください）									
<b>■ルート等の状況</b> 白神岳登山道（マテ山コース、二股コース、十二湖・大峰コース）、向白神岳登山道の一部（二ツ森～太夫峰）、天狗岳歩道、二ツ森歩道及び小岳歩道の既存歩道は、概ね良好に管理が行われており、特に支障なく歩行することができた。特に歩道脇にあり、落石等の危険が予知される枯木等が伐採処理されていたのが注目された。									
<b>■里植物</b> 既存の歩道、登山道の起点・終点や白神岳の避難小屋の周辺にはオオバコが密生し、シロツメクサやイネ科、カヤツリグサ科の人里植物も生育が見られた。既存の歩道沿いも入口からオオバコの生育が見られるが、入口から離れるにしたがって、その勢力は弱まる傾向が窺われた。木道の上や木立の少ない明るい林床で、植生の薄い地点では、部分的に群生する場合もあった。									
<b>■キャンプ跡、たき火跡、樹木の伐採など</b> キャンプ跡の大部分は、河川沿いで大水が出た際でも浸水の危険が少ない高台の平坦・緩斜面に位置し、河川の合流点で多く見られる傾向があった。最も多く確認されたのは追良瀬川流域で、本流沿いの他、ウズライシの沢、サカサの沢等で確認された。次いで、赤石川・滝川流域でも多くのキャンプ跡が確認された（赤石川本流は今回の調査対象地外）。なお、笹内川ではキャンプ跡は確認されなかった。 樹木の伐採は、赤石川本流・滝川合流点の二股右岸のキャンプ跡で確認された。									
<b>■標識類</b> 標識、道標、テープ、ベンキ、落書き、ゴミ等の工作・人工物については、既存の歩道・登山道と比較して指定ルート内では見かけることが少なかった。									
問い合わせ	農林水産省 林野庁 東北森林管理局 TEL: 010-8550 秋田県秋田市中通5丁目9番16号 TEL: 018-836-2014 《原本（データ）の帰属について》								

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。

注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。

注3) 該当する項目の□をクリックし、チェックを入れる。

## 備 考

## ■鳥獣類の生息状況

今回の現地調査によって、大・中型の哺乳類としては、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ニホンザル、キツネ、タヌキ、アナグマ、トウホクノウサギ、テン、イタチ(足跡)、ムササビ、リスの計11種が確認された。今回の調査によって確認された鳥類としては、アオサギ、ツミ、ハイタカ、ノスリ、クマタカなど計43種が確認された。 笹内川、追良瀬川(本流、サカサの沢、ツツミの沢、ウズライシの沢、五郎三郎の沢、四十八滝沢)、赤石川・滝川(本流、西ノ沢、ヤナギツクリの沢)において、イワナの生息を確認した。

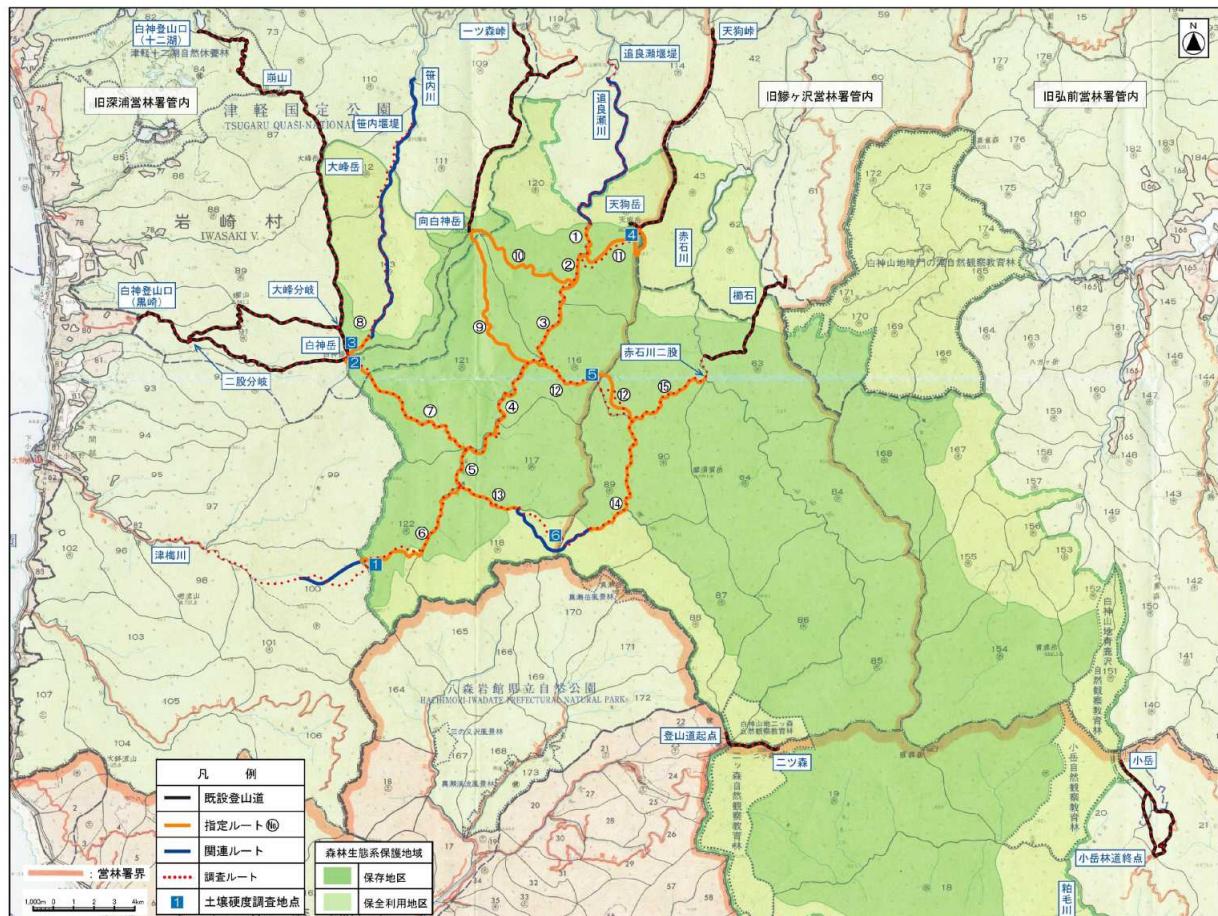


図1-1 調査ルート及び土場硬度調査位置図

※この図面は、平成6年3月に発行された白神山地森林生態系保護地域図を基図としている。そのため、林班番号については、旧鷺ヶ沢営林署管内においては、図示してある番号に200番、同じく旧深浦営林署管内においては300番加算して読み取ることとする(旧弘前営林署はそのまま)。